

東和薬品株式会社
田辺ファーマファクトリー株式会社の株式取得および
製造販売承認の承継に関する説明会

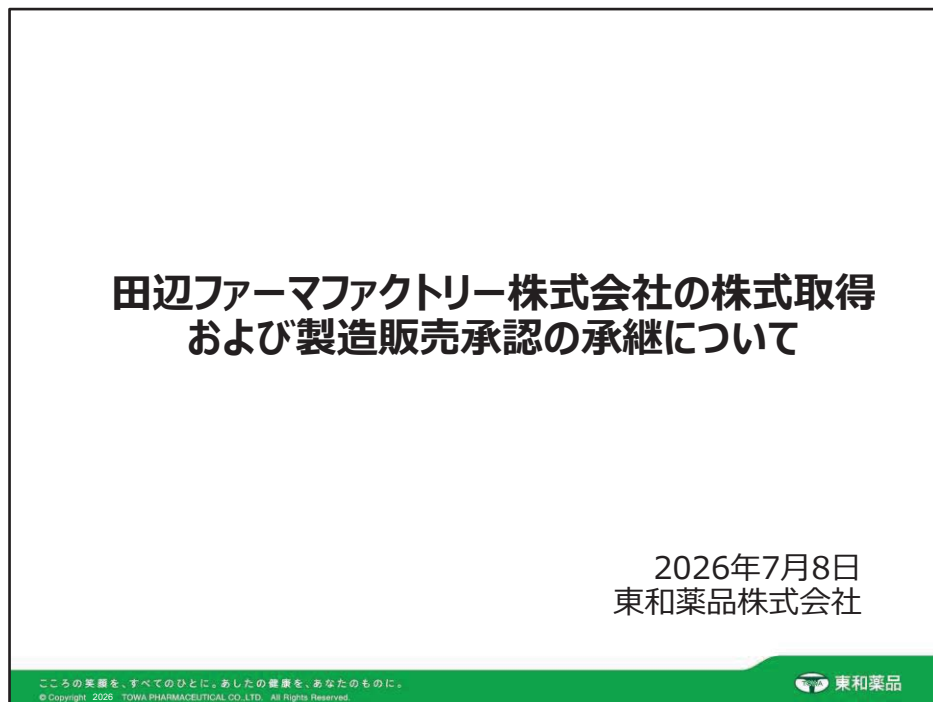
【概要】

日時:2026年7月8日(水)15:30～16:30

登壇者:代表取締役社長 吉田 逸郎
取締役 國分 俊和
取締役 中村 豪之
執行役員 経理財務本部長 畑上 史朗
経営戦略本部長 田中 瑛一郎

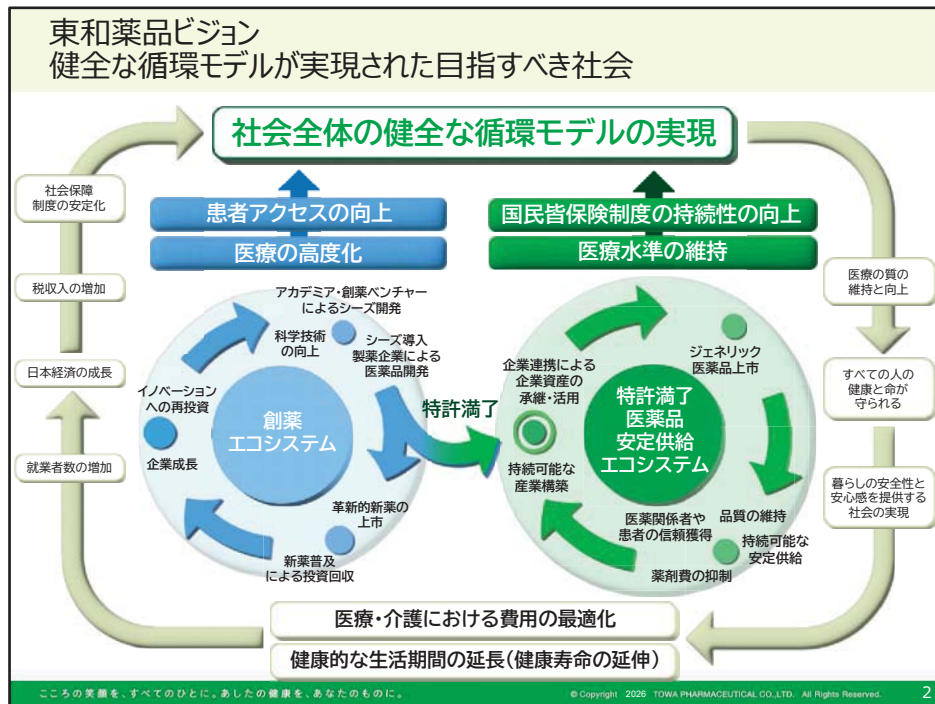
【説明スクリプト】

※目次など、ご説明していないスライドは省略しています。



東和薬品 代表取締役社長の吉田でございます。

7月3日(金)に発表した田辺ファーマファクトリー株式会社の株式取得について、
経緯をご説明いたします。



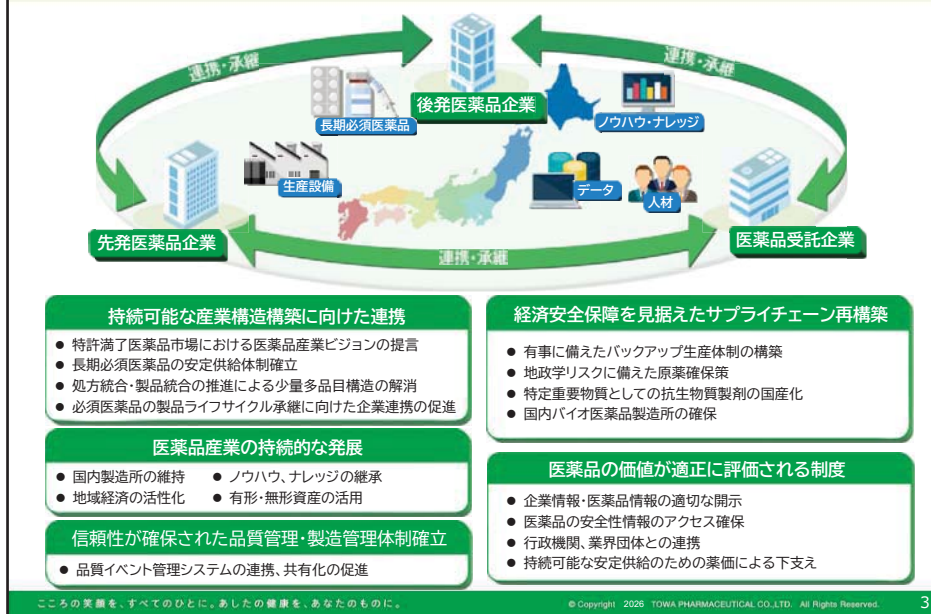
2020年に発覚したジェネリック医薬品企業における品質問題を起因とした供給不安が解消されない中、厚生労働省から公表された「後発医薬品の安定供給等の実現に向けた産業構造のあり方に関する検討会 報告書」において、少量多品目生産などの後発医薬品産業全体の構造的な問題が背景にあるということ、後発医薬品産業の在るべき姿に対してそれぞれの企業と業界団体が将来ビジョンを自ら描いていくべきであるということが示されました。

何か問題点があれば行政からも支援を行うということも言われていますが、現状、業界としての将来に対するビジョンは出てきておりません。

そのような中で当社としては、特許満了医薬品の安定供給エコシステムを通じた社会の健全な循環モデルの実現という東和薬品ビジョンを掲げています。

これは、医療用医薬品産業を特許期間中の医薬品と特許満了医薬品という2つのカテゴリーに分けるという考え方になります。

医薬品企業の連携による特許満了医薬品の安定供給 - 持続可能な産業構造の実現に向けて -



ジェネリック医薬品の使用促進施策によってGEシェアは80%を超え、直近では選定療養などの影響で90%に達しています。
安定供給という観点から見ると、シェア80%の時も問題になっていましたが、その後、複数の企業が行政処分を受け、未だ回復していません。
シェアが90%に達している中、問題解消にはまだ時間がかかるのではないかと考えています。

その中で、現在はジェネリック医薬品の少量多品目生産を解決する手段として品目統合に焦点が当てられています。当社としては安定供給体制をどのように作り上げていくのかということを重視しています。
増産施策として山形工場第三固形製剤棟を新設し、自社3工場の生産能力175億錠体制が完成したものの、需要に対する供給はまだ追いついておらず、限定出荷品目は90品目程度残っています。

さらなる増産が必要になる中、協業の取組みを進めています。
ジェネリックメーカー同士の協業はもちろん、日本で本当に必要な医薬品を供給するためには先発メーカーの長期収載品を作っている工場の製造ラインも有効活用すべきだと考えています。
あり方検討会の報告書が公表された2024年5月以降、このようなお話を各社様にさせていただき、今までに3件、皆さんに協業の形で発表させていただいております。

今回の株式取得については、以前から田辺ファーマ様と前向きに協業の話をさせていただいておりましたが、ベインキャピタル様の傘下に入ったことで、そちらのご意向もあり長く協業の形で連携するのではなく、田辺ファーマファクトリー様の株式を当社が取得するという結論になりました。

東和薬品グループの企業理念

私達は 人々の健康に貢献します
私達は こころの笑顔大切にします



東和薬品グループは、優れた製品とサービスを創造することによって、人々の健康に貢献します。そして私達の企業活動を通して、患者さん、医療関係者の皆様、地域社会をはじめとするすべての方々にこころから喜ばれ、求められる企業を目指していきます。

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2025 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

6

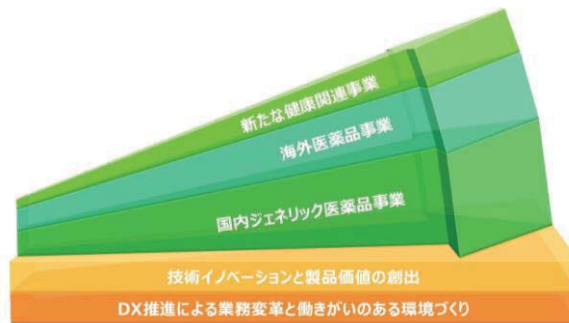
東和薬品 取締役の中村でございます。
私からは、スライドを用いて本案件の概要についてご説明いたします。

まず、スライド6ページをご覧ください。
弊社グループの企業理念をお示ししております。

中期経営計画（2024-2026）基本方針

第6期 中期経営計画 2024-2026

- 方針1 国内ジェネリック医薬品事業の新たなステージに向けた進化
- 方針2 新規市場・新規事業の基盤確立とグループシナジーの実現
- 方針3 持続的成長を支えるサステナビリティ経営の強化と基盤の整備



続いて、スライド7ページをご覧ください。
現在の第6期中期経営計画の基本方針をお示ししております。

本案件は、方針1「国内ジェネリック医薬品事業の新たなステージに向けた進化」の施策の1つとして進めてまいりました。

本案件の概要

	田辺ファーマファクトリー株式会社の株式取得および製造販売承認の承継	
譲渡対象の株式および資産	①田辺ファーマファクトリー株式会社の株式取得（完全子会社化）	②製造販売承認の承継
取得株式数 承継品目数	22,602株 (異動後の議決権の数：22,602個) (異動後の議決権所有割合100%)	17成分35品目
取得価額	非開示	非開示
契約締結日	2026年7月3日	2026年7月3日
譲渡実行日	2026年11月末(予定)	2027年4月以降(予定)
その他	本件による当社の2027年3月期の連結業績に与える影響等につきましては、現在精査中です。 今後開示すべき事項について確定した場合は、速やかにお知らせする次第です。	

続いて、スライド8ページをご覧ください。

今回の買収では、田辺ファーマファクトリー株式会社の全株式取得に加え、田辺ファーマ株式会社が製造販売する長期収載品等17成分35品目を承継することで合意しております。

買収完了時期は、株式譲渡が2026年11月末、長期収載品等の製造販売承認の承継は2027年4月以降を予定しております。

田辺ファーマファクトリー株式会社の概要

項目	内容
会社名	田辺ファーマファクトリー株式会社
設立日	2008年10月
代表者	古瀬 裕介
主要事業	医薬品の製造、売買および輸出入
工場	小野田工場（山口県） 吉富工場（福岡県）
資本金	100百万円（2026年3月31日時点）
従業員数	538名（2026年4月1日時点）

損益計算書概観

百万円	24/3期	25/3期	26/3期
売上高	16,990	18,532	15,784
営業利益	1,311	1,623	1,144
当期純利益	571	948	545
営業利益率	7.7%	8.8%	7.2%
当期純利益率	3.4%	5.1%	3.5%

貸借対照表概観

百万円	24/3期	25/3期	26/3期
資産	47,356	52,286	39,868
流動資産	29,821	35,273	23,635
固定資産	17,535	17,013	16,233
負債	6,289	10,765	8,210
流動負債	5,866	10,335	7,676
固定負債	423	430	534
純資産	41,066	41,520	31,658



小野田工場

- 医薬品の製造で100年を超える実績
- 固形剤の生産ラインには、エアコントロールやソーニングなどの最新システムと多様な造粒機を備え、錠剤や顆粒散剤など、様々な剤形の製品に対応
- 原薬を100カ国以上に輸出しており、米国FDAを始め、海外から高い信頼を得ている



吉富工場

- 固形製剤生産拠点として、国内有数の生産設備を誇る
- A3工場：省人化をめざして自動化設備を導入済
- A5工場：世界基準の医薬品供給をめざして、高度にシステム化された最新の設備を導入。用途にあわせてプレキシブルに対応できる高い生産性を実現し、BCP対応や省エネ性能にも優れている
- S1棟：技術検討、品質試験の実施

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

10

スライド10ページをご覧ください。

田辺ファーマファクトリーの事業概要についてご説明いたします。

従業員数は2026年4月時点で538名です。同社には2つの工場がございます。
また、3ヶ年の損益計算書概観と貸借対照表概観を記載しておりますので、
ご参考いただければと思います。

小野田工場の概要

治験原薬や原薬の製造拠点として、最新のGMPに準拠した第7原薬棟

安全衛生および環境への配慮に加え、多種多様な原薬製造に対応できる、マルチパーパス工場として、少量の治験原薬製造から商業生産までを行っています



固形製剤を安定的に製造している第3製剤棟

GMP基準に適合したグリーン環境のもと、クロードかつオートメーション化された設備で、患者様が安心して服用できる錠剤や顆粒を製造しています

項目	内容	
所在地	山口県山陽小野田市大字小野田7473-2	
設立年	1925年	
敷地面積	307,000㎡	
取得済認証	GMP (JP), FDA (US), EMA (EU), KFDA (KR), FDA (TW), BPOM (IDN), NPRA (MYS)等	
製造棟	【第1・2・3製剤棟】 錠剤、カプセル剤、散顆粒、注射剤	
	【原薬第6・7棟】 原薬・中間体、治験薬	
その他施設	厚生棟、EHSセンター、CIL	
生産実績 (2025年度)	錠剤	3.6億錠
	散・顆粒剤	4.34トン
	注射剤	46.3万本
	原薬	45トン

スライド11ページをご覧ください。

2つの工場のうち1つ目は、山口県山陽小野田市にある小野田工場です。

小野田工場は、治験薬から原薬、固形製剤や注射剤の最終工程までを一貫して製造することができる工場です。

高い生産技術力を持つ工場であると評価しております。

また、約100年にわたる医薬品製造の実績を有し、原薬分野では100ヶ国を超える国々へ製品を輸出するなど、国内のみならず海外からも高い信頼を得ております。

吉富工場の概要

多品種生産に対応した最先端の設備を有しているA5工場

A5工場は、最新のグローバルGMPに準拠した設備とシステムを備えております。また、品目切り替えが容易な装置を採用するなど、フレキシブル生産にも対応。さらに、免震構造を採用しているほか、津波対策として床を嵩上げ、非常時電源を確保するなど、様々な状況への対応が可能な事業継続性BCPに対応した工場です



自社開発の制御プログラムとロボット技術を使い省人化されたA3工場

A3工場は独自の自動化技術を駆使して秤量から、出荷まで省人化を行っています



項目	内容
所在地	福岡県築上郡吉富町大字小祝955
設立年	1942年
敷地面積	382,000㎡
取得済認証	GMP (JP)、FDA (US)、EMA (EU)、KFDA (KR)、FDA (TW)、BPOM (IDN)、NPRA (MYS)等
製造棟	【A3工場】 錠剤 【A5工場】 錠剤、散剤 【S1棟】 技術、品質管理
その他施設	管理棟、倉庫棟
生産実績 (2025年度)	錠剤 12億錠 散・顆粒剤 1.7トン 注射剤 - 原薬 -

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2025 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

12

スライド12ページをご覧ください。
2つ目は、福岡県吉富町にある吉富工場です。

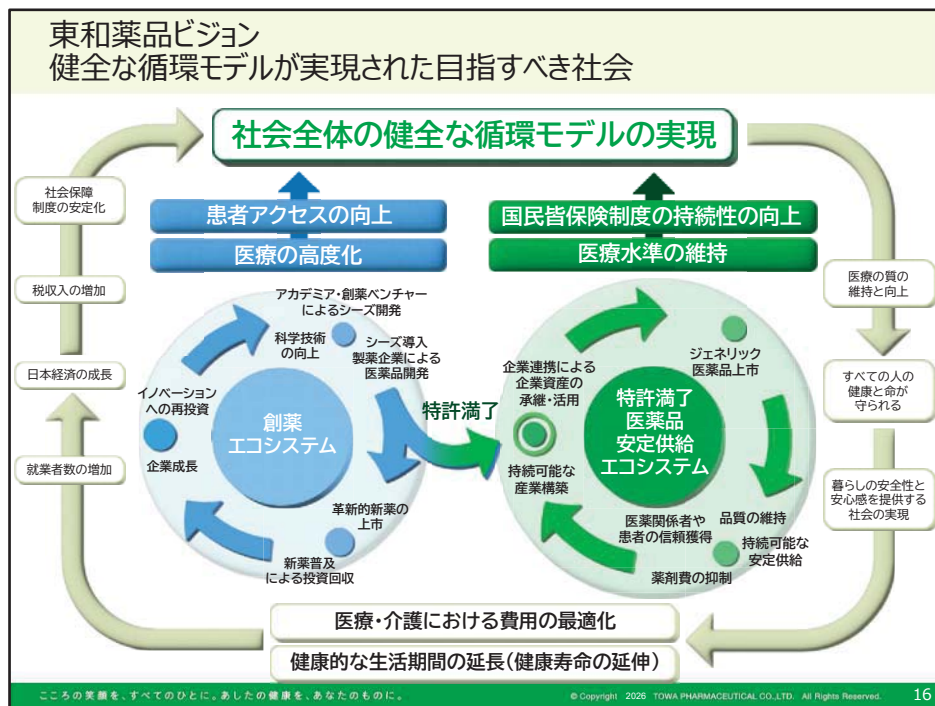
吉富工場は、固形製剤の量産拠点として国内有数の最新設備を備えており、自動化やDX化を進めた高い機能を有している工場です。

承継予定の製品（17成分35品目）について

製品名	薬効分類名
アンブラーグ錠50mg、アンブラーグ錠100mg	5-HT2ブロッカー
ウルソ錠50mg、ウルソ錠100mg、ウルソ顆粒5%	肝・胆・消化機能改善剤
カルグート錠10	心機能改善剤
クリアナール錠200mg	気道分泌細胞正常化剤
コントミン筋注10mg、コントミン筋注25mg、コントミン筋注50mg	精神神経安定剤
タナトリル錠2.5、タナトリル錠5	アンジオテンシン変換選択性阻害剤
デバス錠0.25mg、デバス錠0.5mg、デバス錠1mg、デバス細粒1%	精神安定剤
ニッバスカルシウム顆粒100%	抗結核剤
ノバスタンHI注10mg/2mL	選択的抗トロンピン剤
ハロペリドール錠0.75mg「ヨシトミ」 ハロペリドール錠1.5mg「ヨシトミ」 ハロペリドール錠2mg「ヨシトミ」 ハロペリドール錠3mg「ヨシトミ」 ハロペリドール注5mg「ヨシトミ」	精神神経安定剤
ピーゼットシー筋注2mg	精神神経安定剤
ヒベルナ糖衣錠5mg、ヒベルナ糖衣錠25mg、ヒベルナ散10%、ヒベルナ注25mg	抗ヒスタミン剤
フルデカシン筋注25mg	フェノチアジン系持続性抗精神病剤
プロチゾラム錠0.25mg「ヨシトミ」	睡眠導入剤
ラボナ錠50mg	催眠・鎮静剤
リーゼ錠5mg、リーゼ錠10mg、リーゼ顆粒10%	心身安定剤
レクチゾール錠25mg	抗ハンセン病剤

スライド14ページをご覧ください。
承継予定の17成分35品目を一覧でお示しております。

製品は両社の協議によって選定しており、
当社として製品ポートフォリオの拡充を図ってまいります。

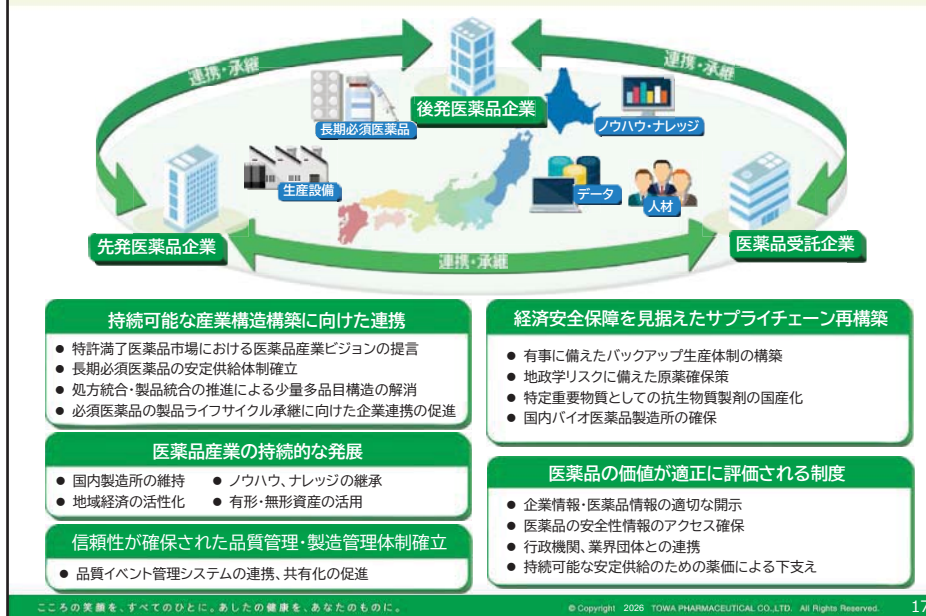


続いて、スライド16ページをご覧ください。
本件の戦略的意義についてご説明いたします。

今回のM&Aは、生産能力の単純な拡大のみを目的としたものではなく、当社がこれまで一貫して進めてきた「特許満了医薬品の安定供給エコシステム構想」を、具体的に実装していくための重要な戦略の一環となります。

当社は、特許満了を起点とした医薬品を1つの市場として捉え、
長期収載品・AG・ジェネリック医薬品という区分に関係なく、
医療上必要な医薬品を将来にわたり持続的に供給できる仕組みづくりが必要だと
考えております。

医薬品企業の連携による特許満了医薬品の安定供給
- 持続可能な産業構造の実現に向けて -



スライド17ページをご覧ください。

この仕組みの実現に向け、先発医薬品企業・ジェネリック医薬品企業・医薬品製造受託企業がそれぞれの強みを持ち寄り、連携していく新たな産業構造が必要だと考えております。

この考え方のもと、当社は、長期にわたり治療上必要とされる医薬品を社会インフラとして支え続けるための枠組みとして、長期必須医薬品を中心とした特許満了医薬品の安定供給エコシステム構想を推進してまいります。

この構想に基づき、当社は複数の取り組みを進めております。

今年1月に発表した大塚製薬様との協業、4月のアドラゴスファーマ川越様との協業、三和化学研究所様との協業において、戦略的パートナーシップとして、増産だけではなく複数拠点でのバックアップ生産体制の構築を進めることで、有事にも対応した強固な安定供給体制を構築していきたいと思っております。

今回の田辺ファーマファクトリーの承継は、この一連の取り組みをさらに前進させる重要な施策です。

これまでの協業が外部パートナーとの連携を通じて供給能力やバックアップ生産体制を広げるものであったのに対し、今回の承継は、高いレベルの品質管理、製造管理、製造技術、経験豊富な人材、ノウハウ、ナレッジといった製造基盤そのものを承継し、東和薬品グループとして中長期的に付加価値を創出できる体制を強化する取り組みです。

戦略的意義

製造能力の拡充による東和グループの安定供給体制の強化と生産効率化

国際標準に準拠した品質管理・製造管理・品質保証体制の強化

高い品質管理水準を支える人材の獲得

バックアップ生産体制の拡充による有事における供給体制の強化

海外認証工場の活用による東和製品の輸出販路拡大

原薬から製剤まで一貫生産体制の強化

長期収載品の長年にわたり蓄積された安全性情報等の知見の継承

スライド18ページをご覧ください。
本件の戦略的意義は、大きく7点ございます。

1点目は、製造能力の拡充による東和薬品グループの安定供給体制の強化と生産効率化です。
今回の承継により、東和薬品グループとしての製造能力をさらに拡充し、当社製品への需要対応力を高めることができると考えております。

2点目は、国際標準に準拠した品質管理・製造管理・品質保証体制の強化です。
田辺ファーマファクトリーが有する国際標準に準拠した高度な管理体制を承継することで、東和薬品グループ全体の品質保証レベルをさらに高めることができると考えております。

3点目は、高い品質管理水準を支える人材の獲得です。
高い品質管理水準は、システムや設備だけではなく、それを支える人材によって成り立っています。
今回の承継を通じて、豊富な経験と現場力を有する人材をグループに迎えることで、製造管理・品質管理・品質保証体制の各プロセスにおける知見の蓄積と継承が可能になります。

4点目は、バックアップ生産体制の拡充による有事における供給体制の強化です。

5点目は、海外認証工場の活用による東和製品の輸出販路拡大です。
東和薬品グループの事業ポートフォリオの拡充にもつながると考えております。

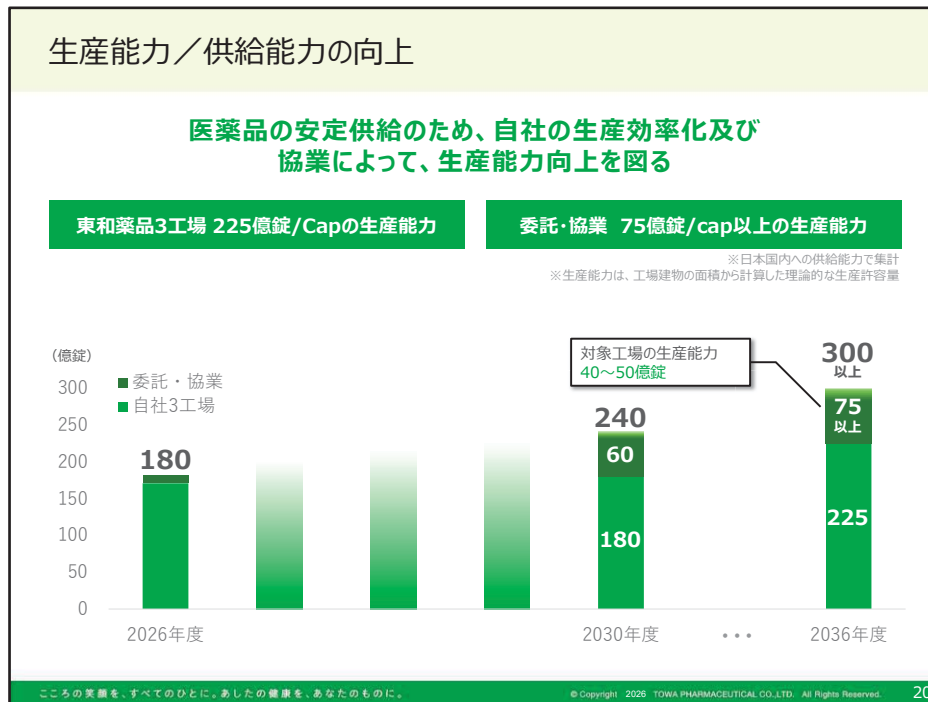
6点目は、原薬から製剤までの一貫生産体制の強化です。
東和薬品グループでは、大地化成で原薬の開発から製造を行っていますが、これのさらなる強化につながると考えております。

7点目は、長期収載品に長年蓄積された安全性情報等の知見の継承です。
今回承継する長期収載品は、長年使用され、蓄積された安全性情報や医療現場での臨床的知見が含まれています。
これらを承継することは、単に製品を引き継ぐことではなく、医療関係者や患者さんが安心して医薬品を使用し続けられる環境を支えることにつながります。
この知見を次世代へ継承していくことも、重要な社会的責務であると考えております。
さらに、本件のもう一つの大きな特徴として、長期収載品の承継を合わせて行う点が挙げられます。

東和薬品と田辺ファーマファクトリーの国内製造拠点



スライド19ページをご覧ください。
今回承継する小野田工場と吉富工場の2工場に加え、自社の既存工場である3工場をマップにお示ししております。



スライド20ページをご覧ください。
これら5工場体制のもと、自社の生産効率化および協業によって、生産能力向上を図ってまいります。

2026年度は、自社3工場に加え協業・委託によって、合計180億錠の年間生産体制を構築する計画です。
2030年度においては、自社3工場の180億錠に加えて委託・協業で60億錠、合計240億錠の年間生産体制を構築したいと考えております。
さらに10年後の2036年度においては、自社3工場で225億錠、委託・協業として今回の2工場の生産能力を40～50億錠に増強したうえで75億錠以上を目指し、合計300億錠以上の年間生産体制を構築していきたいと考えております。

当社が目指していることは、長期収載品とジェネリック医薬品を含む特許満了医薬品を1つのカテゴリーとして捉え、その市場全体の中で持続可能な成長モデルを描くことです。
その成長は、医療上必要な医薬品の安定供給を通じて人々の健康に貢献するだけでなく、製造拠点を支える地域経済の活性化や雇用の促進にもつながり、ひいては日本経済の成長にも寄与し得るものだと考えております。

また、当社は、長期収載品の承継について、単に製品や製造承認を引き継ぐことではなく、医療上必要な医薬品に関する情報資産を含めた社会的資産を次の世代につないでいくことだと考えております。

当社は今後も、特許満了医薬品市場を支える責任ある企業として、長期必須医薬品を含む医療上必要な医薬品の安定供給、そして医療現場に必要な情報資産の継承を通じて、患者さんの治療、医療現場の安心、地域社会や地域経済の活性化、そして日本経済の持続的な成長に貢献してまいります。

ご説明は以上となります。ご清聴いただきありがとうございました。

【質疑応答要旨】

※ご参考として、説明会における質疑応答の内容を要約したものです。

Q：田辺ファーマファクトリーの 25 年度売上高は約 158 億円だが、御社が承継しない品目等もあるため、今後の見通しを教えてください。また、品目統合を進める場合、市場シェアを基準に検討を進めるのか。

A：売上高の内訳は開示できない。品目統合について、当社の GE・長期収載品のどちらに合わせるのかは医療現場での使用状況等を勘案した上で検討したい。

Q：田辺ファーマファクトリーの生産能力を約 40～50 億錠まで増加させる計画だが、小野田工場では過去に 20 億錠程度生産していたため、生産効率を高めることで達成可能なのか、追加の設備投資が必要になるのか。

A：生産の効率化と設備投資によって増産を目指す。現在の生産数量は約 16 億錠となっており、長期収載品のシェアが下がる中で工場稼働率も低下した。今後、GE 製造による稼働率の向上や当社の生産ノウハウを取り入れることで生産数量の増加を見込んでいる。

Q：3 工場及び委託・協業によって 300 億錠以上の生産数量を目指すとは開示いただいたが、これまでの開示内容から生産数量を試算すると 300 億錠に近い数字となった。ほかに水面下で進んでいる案件があつて、今後も生産数量が増える余地はあるのか。

A：現時点で協業に向けた議論を進めている企業は含めていないため、生産数量が増加する余地はある。300 億錠で需要を満たせるか不透明であるため、300 億錠以上に向けた準備を行っている。

Q：財務規律について、自己資本比率が 38%程度、有利子負債が 2,200 億円程度ある。アドラゴスファーマ川越及び三和化学研究所に対する設備投資も必要になるが、300 億錠の生産能力に向けた設備投資資金の調達方法について教えてください。

A：キャッシュフローは次期中計での発表になるが、基本的には借入での調達になる。直近では優先株発行も開示しており、様々な調達方法を検討したい。需要が強い状況のため、必要な設備投資は進めていきたい。

Q：自己資本比率について、今後の見通しを教えてください。

A：基本的な考え方として、私（吉田）は個人的に 50%程度は欲しいと思っているが、GE の使用促進が急速に進んだ中、増産のために借入での設備投資を行った。自己資本比率の改善のために、まずは営業 CF を最大化したい。これまでは借入中心に調達してきたが、直近ではリースの活用や優先株発行なども行っている。

Q：田辺ファーマファクトリーの生産能力の何割程度を東和薬品の製品に割くことができるのか。

A：割合については、今後検討していきたい。当社製品の移管には製造所の追加・変更などの一変承認が必要になり、現制度では 1 年～2 年程度の期間を要する。

Q：田辺ファーマファクトリーの前価率は御社と比較すると高くなっているが、御社グループに加わることで前価率が改善するのか。

A：稼働率が向上することで前価率の低下は可能だと見込んでいるが、製品移管には時間が掛かるため、2～3 年程度かけて前価率を下げていきたい。

Q：買収金額について、優先株発行による調達の範囲内と考えて良いか。自己資本比率が短期的に悪化する可能性はあるのか。

A：具体的な買収金額については、回答を差し控える。自己資本比率の大きな変動はないと想定している。

Q：政府の後発医薬品製造基盤整備基金は活用できるのか。

A：基金の公募が公表されていないため、現時点では回答を差し控えるが、今後の設備投資が公募の対象になる可能性はある。

Q：田辺ファーマファクトリーの 26 年 3 月期業績が減収減益となった要因は何か。

A：選定療養によって長期収載品のシェアが低下した影響はあると思う。

Q：小野田工場は100ヵ国以上に原薬を輸出しているが、Towa INT や大地化成とのシナジーは出てくるのか。また、吉富工場のA3工場では自動化やロボットの導入が進められているが、御社の工場に活かせる部分もあるのか。

A：小野田工場の原薬輸出においてTowa INT や大地化成とのシナジーが生み出せる可能性はある。また、吉富工場のA3工場では自動化設備を導入しており、連続生産も含めた自動化の技術開発・実装も進めている。当社でも自動化・ロボット化を含めた連続生産システムを検討しており、今後技術的なシナジーを生み出せる可能性がある。

Q：本件も特許満了医薬品の安定供給という考え方に基づくものだと思うが、改めてこの考え方について教えてほしい。

A：特許満了医薬品という考え方に関して、長期収載品・GE・AGを区別せず、本当に必要な医薬品は何かということを考えた中で、治療上必要な医薬品を高い品質管理・製造管理のもと長期的・安定的に供給できる体制を作ることが重要だと考えている。また、長期収載品の価値として先発医薬品メーカーが蓄積した安全性情報に大きな価値があると思っ

Q：田辺ファーマファクトリーの現在の稼働率はどれくらいか。

A：具体的な稼働率は把握していない。最大40～45億錠の生産能力があったと聞いているが、設備の劣化など時間とともに生産能力は落ちてしまうため、現在の稼働率は50%程度になっていると思う。

Q：M&A後は在庫のステップアップによる原価悪化がよく起こるが、来期の原価率は悪化するのか。

A：クロージングに向けて検証中であり、影響を抑えるよう取り組んでいく。

以上